

第53回 風に関するシンポジウム プログラム

挨拶 (10:00-10:10)

安成哲三

幹事学会(水文・水資源学会)会長挨拶

基調講演 「さまざまな地球表面と大気間の乱流輸送観測に関する諸問題」(10:10-12:30)

1 渡辺 力

フラックス輸送に寄与する渦の姿と観測上の問題点

2 神田 学

都市域における乱流観測の現状と展望

3 塚本 修

海面上における乱流フラックス測定の実状と課題

総合討論

昼食

一般講演(13:30-17:30)

4 小田僚子・森脇 亮・神田学

東京湾における乱流フラックスの季節変化

5 久保田雅久・岩部然育・Meghan Cronin・富田裕之

NRA海面乱流熱フラックスデータのKEOバイデータによる評価

6 中井太郎・隅田明洋・兒玉裕二

森林の代表群落高を空気力学的に決定する

7 小林菜花子・檜山哲哉

大気安定時における森林群落上の乱流スペクトルの特徴

8 大久保晋治郎・小杉緑子・高梨聡・三谷智典・谷誠

複雑地形上のヒノキ林における夜間CO₂フラックス過少評価に対する考察

9 森脇亮・神田学

都市キャノピーにおけるフラックス・気温プロファイルの空間代表性

10 松本太・一ノ瀬俊明

都市内大規模河川(ソウル市清溪川)の復元による大気環境改善メカニズム

休憩

11 藤原忠誠・山下和也・藤吉康志

ドップラーライダーで検出した“つむじ風”

12 山下和也・藤原忠誠・藤吉康志

大気境界層で頻りに観測されるストリーク気流構造

13 花房龍男・大和佳裕

フラット・アレイ型ソーダについて

14 田畑 弾

富山県の強風地域における屋敷林の建物に対する方向と所有率

15 石塚正秀・三上正男・ジョン レイズ・山田豊

オーストラリア休耕地からの飛砂飛散過程 - JADE-IOP1 観測 -

16 井上久弘・橋本孝明・山本照美・永田英雄

局所風力エネルギーの賦存量調査

17 吉野純・竹内紘基・嶋田進・安田孝志

広域高解像度風況マップ構築手法の効率化

18 川面絢子・久保田雅久

全球衛星海上風データセットの比較・検討

終了後、周辺飲食店での懇親会(5,000円程度)を予定しています。

基調講演概要

渡辺 力(北海道大学・低温科学研究所): フラックス輸送に寄与する渦の姿と観測上の問題点

タワーフラックスの現場で問題になっている熱収支不均衡問題を背景として、LESを用いて水平一様な地表面上の乱流解析を行った。その結果を用いて、接地境界層におけるフラックスの輸送に寄与する渦の姿を明らかにし、代表性のあるフラックスを1地点の測定によって同定しようとする際の問題点を議論する。

神田 学(東京工業大学・国際開発工学専攻): 都市域における乱流観測の現状と展望

都市域における乱流観測は、主に都市気象的な関心からエネルギー収支の把握を目的として行われてきたが、観測実施上の制約が多く、データは少ない。しかも人間活動・地表面の多様性などの影響を受けるため、その統一的解釈が難しいとされてきた。講演では、現在までに得られている様々な実都市での観測データと、屋外の模型都市実験プロジェクトで得られたデータを包括的にレビューし、都市のもつ多様性にも関わらず、その空気力学的・熱収支的挙動には定量的にかなりの共通性が認められることを紹介する。

塚本 修(岡山大学・自然科学研究科): 海面上における乱流フラックス測定の実状と課題

地球上の70%を占める海面と大気との相互作用の重要性は言うまでもないが、陸面過程でのフラックス測定に比べて、(特に外洋上で)乱流フラックスの直接測定が普及していない。もっぱらバルク法での推定にとどまっている。最大の原因は観測プラットフォームを得ることが容易でなく、しかもそれが動揺する、ということである。この問題を含む熱や運動量、二酸化炭素などの乱流フラックス測定の実状と問題点を報告する。

参加希望の方へ: 事前申し込み無しでも参加可能ですが、準備の都合上、電子メールで、タイトルに「風シンポ申し込み」と書き、お名前、所属、連絡先、懇親会参加希望有無を、下記までお知らせください。

〒606-8502 京都市左京区北白川追分町 京都大学農学研究科地域環境科学専攻
谷 誠 E-mail: tani@kais.kyoto-u.ac.jp 075-753-6086

「東京大学弥生講堂・一条ホールまでの案内図」

